

—諸人のここに学びて— 校長室から見える風景(7)

一日一日をどう過ごすか

先週のことです。事務室の職員が校長室にやってきました。「校長先生、今地域の方からお電話がありまして・・。」このような場合、注意をいただくことも多いので、「何かあったのだろうか。」と少々不安な気持ちで職員を迎えました。すると、職員はこのような報告をしてくれました。「地域の女性の方からの電話です。倒れた植木鉢を起こしているときに、自転車で通りかかった豊高の1年次の生徒が自転車を降りて手伝ってくれたとのことでした。お礼を言いたくて電話しましたとのことでした。教頭先生に伝えようとしたら、席外されて。でもいい電話だったので校長先生に報告しようと思ひまして。」

ありがたいことです。自転車を止めて女性を手伝ってくれた生徒、わざわざお電話くださった地域の方、報告に来てくれた職員、それぞれに感謝します。

話は変わりますが、6月12日から15日まで京都で全国高校総合体育大会近畿地区予選(陸上競技)が開催され、本校から3名の生徒が出場しました。そのうち、3年生の今西瑛大さんが110m障害で4位となり、7月に広島で行われるインターハイへの出場を決めました。当日は万全のコンディションではなかったそうですが、冷静なレース運びで見事4位に入賞しました。他の2名も準決勝まで進出しました。3名の生徒を心から称えます。

地域の方をお手伝いした1年次の生徒、110m 障害の今西さん、準決勝まで進んだ2名の生徒、共通するのは日ごろの在り方が素晴らしいのではと思っています。1年次の生徒はいつも周りの人の様子をよく見て、手助けすることができていたのでしょう。陸上競技部の3名も日ごろの地道な練習の積み重ねが近畿での成果に表れたのでしょう。一日一日をどう過ごすかが、必ずどこかで出てくるのです。